大躍進　真和生！

～卒業生からの熱きメッセージ～

東大をめざして

東京大学　理科一類　後藤正太郎

皆さんこんにちは。無事、志望校に合格することができ、この真和通信に寄稿させていただくことになりました。ここに文章を載せていただくことは中学時代からの目標だったので、大変光栄に思っています。

さて、書きたいことはいろいろあるのですが、それらをうまくまとめられる自信がないので、話題ごとに章立てしました。参考になるかわかりませんが、読んでいただければ幸いです。

●日々の学習に求めるもの

私は入試に向けた学習の中で次の二つの力を高めることを意識していました。抽象的な表現になりますが、一つは「簡単な問題をいとも簡単に解く」力、もう一つは「初見の問題や難問にもひるまず対処する」力です。これは数学でいえば、いわゆる〝いつもの手順（ルーチンワーク）〟を時間をかけずに解く力と、一見手が出せないような問題でも自分の知っている領域に帰着させて解決へと導く力、ということになります。これらの力は、他のどの教科についても、どの大学を受ける場合においても重要であると考えます。

●東大を受験する方へ

東大の問題の特徴は、①超難問よりも、正確な論理と柔軟な思考力を問う問題が目立つ、②分量に対して制限時間がシビアである、③英語にリスニングが含まれる、④理系でも国語が必要、といったところです。

間違いなくいえるのは、「形式慣れ」しているかどうかで大きな差が生じる、ということです。そのため、各予備校の「東大模試」は、できる限り受けておくことをお薦めします。

なお、試験当日は早めの入場を心掛けましょう。私の場合、「開門時刻」の十分前に到着したのですが、既に受験生で長蛇の列が…結局、試験室に入ることができたのは集合時刻ギリギリになってからでした。

それともう一つ。当日はチョコレートを数箱持っていくといいでしょう。休憩時間に一気喰いで糖分補給！長丁場には不可欠です。

●世界史を薦めてみる

世界史は他の社会科目と比べると暗記する量が多くて受験には不利…なんて思っている人も多いかもしれませんが、実はとても面白い教科なんです。私は理系ですが、世界史は私にとって最も勉強していて楽しい教科でした。これは、世界史を教えてくださった先生のおかげ、というところが大きいのですが、歴史上の人物とそれにまつわるエピソードを知ることが好きになり、そのおかげでセンター世界史でも満足できる結果を出すことができました。理系には敬遠されがちな世界史ですが、決して不利ではありません。志望校による制約がないなら、選択教科は自分の好きなものが一番です。

●皆と学ぶ授業こそすべての基盤

「授業を大切にせよ」…真和の皆さんにとっては聞き慣れたフレーズでしょう。先生の説明を聞きながら学んだほうが効果的であることは言うまでもありません。しかしさらに重要なのは、「仲間とともに学んだ」という事実そのものです。これは、受験直前期のメンタル面で大いに意味を持ってきます。

受験勉強中には、それまでやってきた勉強が無駄だったのではないか、本当は勉強できていないのではないか、というように、それまでの勉強について不安になることがあります。そんなとき、「クラスのみんなと毎日勉強してきた」という確たる事実があることで、それまで歩んできた努力の道程に自信を持つことができる―そういった意味でも、先生方や友達は掛け替えのない存在なのです。

●最後に

ともに歩んできた仲間達、ずっと見守ってきてくれた家族、そして、真和でお世話になったすべての先生方に、改めて感謝の意を表し、筆をおくことと致します。

ありがとうございました。

数学が苦手な人へ

熊本大学　医学部 医学科　竹内　陽介

皆さんこんにちは。僕は今年晴れて志望校に合格することができ、こうして真和通信に寄稿させていただくことになりました。僕がこの日を迎えるのに人より二年長くかかったのですが、その原因は数学の力不足でした。皆さんの中にも数学が苦手だという人は少なからずいるかと思います。なので僕が受験勉強中に数学について気付いた事を書いていきます。もっとも、二年も余計にかかった人間の言う事ですから効率は良くありませんし、そんな事は言われなくてもすでに知っている、という事ばかりでアドバイスにはならないかもしれませんが、どうか暇な時にでも読んでいただければ幸いです。

まず、受験数学はあくまで人真似から始まるという事を認識して下さい。基本公式はもちろんとして、典型的な解法パターンは素直に真似てもらって構いません。ただしここで注意しなければならないのは、単なる「暗記」をしてしまうのではなく、自然と覚えるくらいまで何度も見て解法の「流れを理解」することです。この「流れを理解」することがとても重要で、一見この解法では解けないと思われる問題でも、実は根本的には解法の流れが全く同様であることがかなり多いのです。難しい問題であればあるほど、それに適する解法を想起させにくいように工夫が色々となされています。だから、問題を解くという事は作問者の意図を見抜く事に他なりません。そのためには、基本的な解法を多く知っておくべきです。

次に、一つの問題を解くのに何時間もかけるのは決して無駄な事ではありません。僕も最初はそうだったのですが、多くの人は三十分考えて解けないとすぐに解答を見たくなると思います。そして見た後、その問題の思いのほか簡単なやり方で解けることを知って軽視するのです。このような場合、その時は解法の中にはほとんど残っておらず、後に類題と出会った時まった同じミスを犯してしまうでしょう。これでは先の問題にかけた三十分が全くの無駄になってしまいます。なので、解けない問題に対しては時間をかけて自分が納得のいくまで取り組んで下さい。もしそれで解くことができたら、解法がしっかりと頭の中に残り忘れることはありません。そして何より自分の力で解けたという達成感が得られ、自信につながっていきます。解けなかった場合でも、時間をかけている分印象に残りやすいので、すぐに解答を見てしまうよりも忘れにくくなります。もちろん本番では時間に制限がありその中で問題を解ききらなければいけません。しかし時間をかけて解けないと問題を制限時間内に解けるはずありません。日頃からいかに長い時間一つの問題と向き合えるかが大切なのです。この事に僕は浪人した後にしか気付くことができませんでした。だから皆さんには早い時期からこれを実行することをお勧めします。

最後に、自分なりの解法ノートを作ると便利です。問題を解き終えた後で、この問題を解く上でどんな事に気をつけなければならなかったか、どういう事を強く意識しなければならなかったか、どういう事を強く意識しなければならなかったか、どういう事を強く意識し

六年間を振り返って

九州大学　経済学部　河田　栞

皆さん、こんにちは。私は今、入学式を目前に控え、大学生活に不安と期待を抱きながらこれを書いています。文系でありながら文章を書くのは苦手なのですが、真和での六年間の感想や学んだことを書こうと思うので読んでもらえると嬉しいです。

さて、たいていの人にとって勉強とはできるならばやりたくないことだと思います。定期テストや模試なんて面倒だ！という人も多いはずです。実際、私もその一人です。そんな人にとって受験勉強ほど面倒できついことはないでしょう。私がそんな受験勉強を乗り越えることができたのは吹奏楽部という存在があったからだと思います。そんな吹奏楽部で学んだ考え方を二つ紹介したいと思います。

まず一つ目は「やりたいことを精一杯できないなら、やらなければならないことなんてできない」です。私の場合、「やりたいこと」とは部活で「やらなければならないこと」とは勉強です。「やりたいこと」と「やらなければならないこと」のどちらをするのも同じ一人の人間なのです。「やりたいこと」を最後までやり遂げられなければ「やらなければならないこと」を最後までやり遂げることはなかなか難しいと思います。だからこそ、「やりたいこと」と「やらなければならないこと」を区別し、一方に偏ることなくやり遂げることが大切なのです。私は勉強と部活を自分なりに両立し、最後まで続け、目標とする大学に合格することができました。勉強が学生の本分であるのは確かです。しかし、中学・高校の時にしかできないことはたくさんあると思います。私は皆さんにそんな「今しかできないこと」や「今やりたいこと」を見つけ、最後までやり遂げて、達成感を感じてほしいと思います。

二つ目は、「自分に自信を持つ」です。私が部活をやっていて強く感じたことは、何事も気持ち次第だということです。例えば、曲の中で難しい部分があり、何度練習してもうまくいかない時、「私にはできないんだ…」と思うことが多いと思います。しかし、「私にはできるはず！」と思うと意外とできるようになるものです（実際、私も経験したことがあります）。これは勉強についても同様で、「私ならできる！」とプラスに考えるか、「私にはできない…」とマイナスに考えるかで結果は全く違うものになるでしょう。自分のことを一番信じることができるのは自分自身です。自分を信じ、プラスに考えることで結果は自ずと付いて来るものだと思います。だからこそ、自分に自信を持ち（自分の実力を過大評価した自信ではいけませんが…）、様々なことに挑戦してください。

これまで二つの考え方を紹介しましたが、皆さんの参考になったでしょうか。私は真和での六年間の生活で、家や教室以外に部室という安心できる場所を持つことができました。多くの先輩方がそれぞれの目標とする道に進み、お忙しい中部室に来てくださっては、演奏だけではなく勉強のこと指導もしてくださいました。そんな先輩方を見るたびに私も後に続いて後輩たちの手本になりたいと思っていました。また、私が部室に行くと、後輩たちが必ず笑顔で迎えてくれ、受験勉強での疲れを忘れさせてくれました。そして、顧問の先生にも様々なご指導をしていただきました。このような部室という環境があったからこそ、精神的に追いつめられることもなく、余裕を持って受験勉強ができたのだと思います。中学・高校生活は一度きりしかありません。「あの時ああしてしまえばよかった…」なんて後悔しなくていいように、今しかできないことを精一杯やって、精一杯楽しんでください！

最後になりましたが、これまで私を支えてくださった先生方を始め友達、先輩方、そして後輩の皆さん、ありがとうございました。今後もまに学校に行くと思うので、その時は笑顔で迎えてもらえたら嬉しいです。

受験を終えた今、思うこと

大阪大学　法学部 法学科　木村　円香

真和のみなさん、こんにちは。今回この合格体験記を書かせていただくにあたり、各教科の勉強法については、的確にアドバイスできる自信がないので、受験を通して私が大切だと感じたことを書きたいと思います。参考にならない部分も多いと思いますが、読んでいただければ幸いです。

まず一つ目は、月並みなことですが、規則正しい生活をすることです。そのためには、自分をよく知ることが大事だと思います。例えば、いつ寝て、いつ起きて、いつ勉強するのが自分に一番合っているのかなどです。私の場合、部活や夕課外が終わって家に帰ると、疲れて眠くて仕方なかったので、夜早く寝て三時くらいに起きて、学校に行くまで勉強していました。これは、私が一年のときにいろいろ試した末に決めた生活リズムで、三年までこの生活を続けてこられたのは、やはり自分にピッタリだったからだと思います。まだあまり受験を意識していない一、二年生のみなさんも、時間に余裕があるうちに、自分に合った生活リズムを確立することをお勧めします。また、規則正しい生活とはあまり関係ないのですが、自分が勉強に対する意欲を増す手立てを知っておくのも、受験生にとっては役立つことだと思います。受験生としての一年間、常にやる気を維持することは難しいです。勉強しなきゃいけないと頭では分かっていても、どうしても机に向かう気が起きない、ということもあります。そんな時、どうしたらやる気が出るのか。これも人それぞれですね。今まで受けた模試の結果を見たり、昼間ずっと日向ぼっこしてみたり、高校受験を思い出してみたり。高校受験で失敗して真和に来た、という人は、もうあの時のような思いはしたくない、という気持ちを持つだけでも、随分変わると思います。やる気が出る方法を、是非見つけて下さい。

二つ目は、友達を大切にすること。友達と話すことは、とても有意義な息抜きだと思います。受験の時は、自分に合った生活リズムで、不安や悩みを抱くことは誰でもあります。そのような悩みも、友達に話すことで、本当はたいしたことではないことに気づいたり、解決できることもあると思います。話すだけでなく、一緒に勉強することも効果があります。勉強を教え合えるということはもちろんですが、目指す大学や学部が違い、別々の科目をしていたとしても、友達の頑張る姿を見て、私も頑張らねばと感化されることが何度もありました。受験が近づくと、時間の足りなさに焦って自分の殻に籠りがちですが、受験までの時間が減っているということは、学校で友達と過ごせる時間も減っているということです。勉強の時間だけでなく、友達と関わる時間も大事にしましょう。

最後になりましたが、私がここまでこられたのは、周りの人の支えがあったことに他なりません。真和の先生方、友達、バドミントン部のみんな、女子応援団のみんな、そして試験直前に手紙やキットカット送ってくれた人、本当にありがとうございました。

アドバイスと心構え

九州大学　理学部 化学科　山本　裕典

真和の皆さん、こんにちは。無事引っ越しも終わり、新生活に喜びと不安を感じながらこの原稿を書いています。ここでは、大学受験を考えている皆さんに、自分なりのアドバイスや心構えを書きたいと思います。これらが少しでも皆さんの役に立てればうれしいです。

一つ目は、目標（志望校など）を立てることです。受験において、早めに志望校を決めて、「その大学に絶対合格する」という強い意志を持つことが大切だと思います。やる気が出ます。また、各教科においても目標を立てた方がいいと思います。「偏差値を五上げる」などの簡単なもので構いません。そうすれば、そのために自分が今何をすれば良いかが分かり、勉強もはかどると思います。

二つ目は、勉強の仕方について書きたいと思います。勉強する時、僕が大事にしていることは、「よく考える」ということです。（特に数学・物理）皆さんは問題を解いていて、分からなかったらすぐに答を見て、そのまま次の問題に移ったりしてはいないでしょうか。僕は以前、その方が効率がいいと思っていました。しかし、それではただ答を暗記するだけになってしまいます。これじゃダメだと気付き、しっかり考えるようにしてからはだんだん問題が解けるようになりました。問題を解くときはできるだけ時間を費やしてしっかり考えて下さい。仮に解けなかったとしても、なぜ見てどうして解けなかったのか、何を理解していなかったから解けなかったのかを よく考えることは、大変大切だと思います。また、解けた問題においても、解けたことに疑問を持つようにして下さい。「なんとなく見たことがあるから解けた」では次につながっていきません。「この問題文があるからこの公式を使って解いた」というような自分の思考過程が分かって初めて「解けた」ということになると思います。大変ですがこれを繰り返していけば確実に力はついていくと思います。

そして、一番大事なのはこの三つ目です。それは、「感謝の気持ちを忘れない」ということです。私達はいろんな人に支えられて生きています。両親や先生方、友達など多くの人々に見守られ、助けられています。このことは絶対に忘れてはいけません。当たり前のことですが、こういう気持ちこそが最終的な結果につながっていくのではないでしょうか。

まだまだ伝えたいことはありますが、書くのが下手なのでこれくらいにさせていただきます。拙い文章でしたが最後まで読んでいただきありがとうございました。

皆さんの御健闘を祈っています。

合格するには

熊本大学　薬学部 創薬学科　坂本　翠

皆さん、こんにちは。私は真和に在籍中、三号の真和通信を拝読しました。いつも読み手であった自分が書き手になるのは、不思議な気がします。今から高校三年間と浪人生活リズムをつくる

私は六～八時間ほど毎日睡眠時間をとっていました。二次試験直前は八時間寝ないとダメでした。その代わり、昼間学校では、絶対眠くても起きてました。それは当然ですが、試験は朝から夕方にあるからです。多分この真和通信を読んでいる方のほとんどがセンター試験を受けることになると思いますが、あれは体力的にきついです。それを乗り越えるためにオススメなことは、これから先受ける試験本番日と同じスケジュールで行動してみることです。試験日一週間くらい前から私は本番を意識し、その本番の日に起きる時刻に起き、JRに乗り、例えば本番九時～十時まで数学の試験ならば、その実施期間中、同様に九時～十時まで数学の勉強をし、本番の日、昼食を摂る時刻に昼食を摂ることをしていました。ここで注意ですが、起きる時間だけは一年間くらい、毎日（土・日も!!）守ってください（遅刻せずに学校に行く人にとっては心配のいらないことですが…）。

○授業について

授業を絶対活かすべきです。分からないところがあったらすぐ先生に質問しましょう。また自分一人で勉強しても、疑問に思うことがあっても、すぐに解決できないことがあります。私はそんなとき先生方をつかまえて教わることが度々ありました。そして、私は理系ですが、ものすごく数学が苦手だと思っています。多くの人が受けるセンター試験の過去問は多数の出版社がだしています。また安いです。あんなに分厚いのに千円もしません。（笑）私は過去問を買ったときから受験を強く意識したように思います。それに直前期になると過去問が売り切れてしまったりするので早めの購入をおすすめします。

以上、三つのことについて触れましたが、稚拙な文章ですみません。もし何かの参考になれば嬉しい限りです。

最後に、皆さんの健闘を心から祈っています。ここまで読んでくださってありがとうございました。

○過去問について

高三の夏くらいまでには一度は解くことをお薦めします。全く解けなくても気にしなくてよいです。自分と志望校のギャップを知り、出題傾向を知ることが重要です。学校によっては偏差値と問題のレベルが著しく違ったり出題範囲に偏りがあったりします（安易に、この分野は十年ででないから出ないだろう、という考え方はちょっと危険です）。多くの人が受けるセンター試験の過去問は多数の出版社がだしています。また安いです。あんなに分厚いのに千円もしません。（笑）私は過去問を買ったときから受験を強く意識したように思います。それに直前期になると過去問が売り切れてしまったりするので早めの購入をおすすめします。

以上、三つのことについて触れましたが、稚拙な文章ですみません。もし何かの参考になれば嬉しい限りです。

最後に、皆さんの健闘を心から祈っています。ここまで読んでくださってありがとうございました。

真和での六年間を通して

熊本大学　理学部　中村　行秀

真和の皆さん、こんにちは。真和通信の原稿依頼が来たと聞いた時、私は正直かなり当惑しました。親に指摘される程、私には文才が無いからです。しかし、引き受けてしまったので（正直後悔していますが）仕方ありません。何とか字数だけは埋めてみることにします。

私は中学と高校の六年間、真和にお世話になりました。当初は本当に様々な事があり、辛い思いもしましたが、今では良い思い出です。その時の担任だったA先生には高校に上がってからも色々とお世話になりました。ありがとうございました。

高校での三年間はとても充実した日々を送りました。恐らくこれから一生、こんな時間は来ないに違いないと思う程楽しい時間を過ごせました。私がここまで楽しい高校生活を送れたのは、クラスメイトや先生方のおかげだと思います。その中でも課外後まで質問に答えてくださったM先生や、私の苦手科目である英語を引き上げてくださったS先生には特にお世話になりました。とても感謝しています。

それでは最後になりましたが、私からの受験に対するアドバイスを、一つ。〝ある程度余裕を持って試験を受ける〟です。この〝余裕〟というのは学力面ではなく、精神面でのそれです。すべりどめ程度の私立大なら半ばピクニック気分でも受けられます。しかし、センターや本命の国公立受験の重圧や焦燥感は凄まじいの一言に尽きます。それらをまともに受けとめれば模試ではしたこともないようなケアレスミスを出してしまったりします。

では、それを無くすにはどうするのか？ということですが、これは本人よりも周囲の人間の気配りが重要です。自信づけたり鼓舞したような言葉を送られるだけでも、大分心持ち楽になります。

あるいは本人だけでできることもあります。例えば〝得意科目を持つ〟ことは自信向上に繋がります。私の場合は化学でしたが、「この科目ならたとえ誰が相手でも負けはしない」と思える科目を持っているだけで、気分がとても楽になります。

私から言えるのは以上です。後輩の皆さんの充実した学校生活と志望校合格を祈っています。では、最後まで御一読くださり、ありがとうございました。

受験生活を振り返って

宮崎大学　医学部 医学科　有馬　瑛子

在校生のみなさん、こんにちは。今回の真和通信に書かせていただけることを大変光栄に思います。ここでは、私が実際に実践したこと・感じたことを原稿のスペースが許す限り書いていきます。一つでも参考にしていただけると幸いです。

志望校・学部が決定して、そこへ向けて勉強する前にまず、受験科目・配点・最低点をしっかり把握することです。私が通った予備校ではまず自分でこれらを調べ、把握しないと聞かれてもすぐに答えられる状態にしておくようにと言われます。実践する・しないは個人の自由ですが、志望校に合格していく友人は少なくともこれを完璧にしています。なぜこんなに強く勧めるかというと…実際私がこれを一〇〇％実行していなかったがために痛い目に合ったからです。センター試験の科目で世界史A・Bどちらでも受験できると思い、本番で止めの私立が全て受けられずA を解いたら、志望校・滑り…という経験をしたからです。後輩の皆さんに私と同じ経験をしてほしくないので、赤本等を参考にしてぜひ調べてみて下さい。

私は、人に語れるような勉強法を取得していた訳ではありませんが、浪人中一緒に頑張ってきた友人皆が共通して実践していたことを二つ紹介します。一つ目は過去問研究です。「えっ!?当たり前でしょ!」と思われた方が多いと思います。そう、もちろん当たり前です。しかし、私が現役時、センター試験が終わってから過去問研究に取りかかるという、今では考えられないことをしていました。そもそも、過去問研究は何のために行うかを考えてみて下さい。大学によってよく出題される分野・傾向が必ずあると思います。また、これからどういう勉強をしていけば、解けない問題が解けるようになるかという今後の勉強計画を立てる良い材料となります。だからセンター試験が終わってからでは話にならないのです。今思えば、現役時、私は本当に受験に甘かったな…と思います。友人も私もG・W（ゴールデンウィーク）中に資料室から赤本を借りて解きまくり、夏休みまでにある程度自分の頭の中で傾向等をまとめ、今後の計画を立てました。おかげで、夏休みが今まで以上に有意義に過ごすことができました。

二つ目も過去問研究なのですが…センター試験の過去問研究です。「二次力をつければ、センターも採れる!」とよく耳にしますが、私は二次力がある程度ついても、全くセンター型模試で点数が採れませんでした。他の仲間に相談したら、結構私のまわりも同じような人が多かったので、全科目の過去問を割り勘で出し合い、十年分×三は少なくともやりました。なんだかんだ言って、やっぱりセンター試験は大事です。私よりも二次の成績は良いのに、センター試験失敗して医学部を諦めた仲間が何人もいます。本当にもったいないです。センター型で点数が採れない人、騙されたと思ってトライしてみて下さい。

最後になりましたが、私を今まで励まし支えてくれた先生方、友人達、そして家族に感謝します。稚拙にもかかわらず、偉そうな文章で…申し訳ありません。最後まで読んでいただきありがとうございました。

奇跡は起こる

上智大学　文学部 新聞学科　酒井　優

真和のみなさん、こんにちは。最初に断っておきますが、私はこれといって特別な受験勉強をしたわけでもありませんし、運だけで受かったようなものなので、これから書くことは参考にならないかもしれません。しかし、これを読んで自分でもいけるかも!と思っていただければ幸いです。

私はほぼ三年間下宿に住んでいました。一学期間だけ寮にも入っていたのですが、その時は切磋琢磨し合える友達と、一生懸命勉強していました。しかし、下宿で一人で住むようになり、時間も自由になったこともあって、勉強もほとんどしなくなり、学校もよく休むようになりました。最初は自分への甘えからこうなってしまったのですが、こんな自分が本当に嫌になり、「変わらないと」「勉強しないと」という強迫観念が毎日続くようなかたちになりました。それでもなんとか、先生や友達、親の支えによって持ち直し、ここまできたんだから卒業まで頑張ろうと思うようになりました。この頃の私は受かれば どこの大学でもいいという考えでした。

それからちょっとずつ勉強するようになり、やっぱり行けるところに適当に行くのではなく、夢にできるだけ近づけるような大学に行きたいと思うようになりました。しかし、相変わらず勉強量、勉強時間は他の受験生より少なく、こんな考えは本当は持ってはいけないのですが、浪人して行ければいいやと考えてしまいました。

そして一月に入りセンターが終わり、いよいよ私立入試が始まりました。私は最初から諦めモードだったので、試験当日はあまり緊張せずにのぞむことができました。これが逆に良かったのかもしれません（笑）。結果発表で、合格の文字を見たときは、「奇跡が起きた」と本当に思いました。

私はこのように、とんでもないダメ人間ですが、この受験期に学んだことは、特に大事だと思ったことは、

①学校は遅刻・欠席せずきちんと行く

②過去問はできるだけ多く解く

③マイナス思考にならない

④志望大学との差がありすぎて、周りに何か言われても気にしない

⑤試験直前まで諦めない

です。特に⑤は一番みなさんに伝えたいことです。大学入試は何が起こるかわかりません。少しでも可能性があればチャレンジしてほしいと思います。挑戦せずに後悔することほど悔しいことはありませんとよく聞かれますが、みなさんもそう思ってもらえるように、最後まで諦めず進んでいってください。

最後に、一、二年のときの担任のT先生、三年のときの担任のN先生、授業でお世話になった先生方みなさん、本当にありがとうございました。

自分に甘くなってしまうあなたへ

自治医科大　松下　晴香

勉強しようと机に座りシャーペンまで握ったものの、なんだかそわそわして落ち着かず、バッグから真和通信を取り出して読み始め、いつのまにか一時間近く時間がたっている…なんてあなた。よくわかります。私もそんな人間です。

もちろん、きちんと勉強時間を設定して勉強し、休憩時間にこの文章に目を通していらっしゃる方も多いとは思います。そのような方は私の稚拙なこの文章は読まず、どうか隣に並んでおります素晴らしい方々の手記に目をお移しください。

各教科の勉強法など細かい面は経験豊富な真和の先生方におまかせして、どうしても勉強が手に付かない私のような方にアドバイスをしていきたいと思います。

①まずはモチベーションアップです!自分の行きたい志望校、そこに行っている自分の姿を想像します。何が何でもそこに行ってやる!という気持ちが大切です。今の自分の実力なんて一旦忘れてしまいましょう。

②とりあえず勉強机の周りから、勉強に不必要なものを排除します。携帯を机の上に置まうと、受験直前までもたずに爆発（笑）してしまう可能性があります。

③机に座ったら勉強開始ですが…センター試験の過去問研究なので、「二次力をつければ、センターも採れる!」と耳にしますが、私は二次力がある程度ついても、全くセンター型模試で点数が採れませんでした。他の仲間に相談したら、結構私のまわりも同じような人が多かったので、全科目の過去問を割り勘で出し合い、十年分×三は少なくともやりました。なんだかんだ言って、やっぱりセンター試験は大事です。私よりも二次の成績は良いのに、センター試験失敗して医学部を諦めた仲間が何人もいます。本当にもったいないです。センター型で点数が採れない人、騙されたと思ってトライしてみて下さい。

最後になりましたが、私を今まで励まし支えてくれた先生方、友人達、そして家族に感謝します。稚拙にもかかわらず、偉そうな文章で…申し訳ありません。最後まで読んでいただきありがとうございました。

伝えたいこと

九州工業大学　情報工学部　宮島功之亮

真和の皆さん、こんにちは。僕は真和中から六年間八代から学校に通い無事卒業することができました。今回九州工業大学に合格し真和通信を書かせていただく機会に恵まれ大変うれしく思います。学生生活を振り返り自分なりに学んだことを述べたいと思います。読者の皆さんの一助にでもなれば幸いです。

大学合格に至るまでにおいて、僕が最も感謝していることは化学担当のM先生との出会いです。高二のときのその先生との出会いが僕の世界をがらりと変えてくれました。僕は先生のどの生徒にも優しく接し、熱心に授業をしてくださった姿に心惹かれ、化学を頑張ることを志しました。そしていつしか化学をやることが楽しくなりました。そのおかげで、進路を決定することができました。

脳科学者の茂木健一郎先生がこうおっしゃっています。「自分にとってのうれしいことを見つけるのが人生の課題だともいえます。うれしいことがやるべきことと一致したら、もっとうれしい。きっと、人間は劇的に成長できます。」この言葉が理解できるような先生との出会いが勉強に対する意欲がもてないままでいた私の意識に変化がみられました。その過程の中で学んだアドバイスを以下に述べます。

一、できるだけ早く目標をもつこと

この目標とは自分は絶対○○大学□□学部△△学科に合格するというような具体的な目標です。志望校の学部学科を決定したら受験科目の配点と近年の合格最低点を把握し、現在の学力との隔たりがどの程度なのか数値で確認することです。志望校合格に向けて勉強していくわけですが、なかなか成績が上がらずやる気が出なくなることがあります。目標達成のためにいかにモチベーションを高く持ち続けるかが鍵になります。そこでおすすめしたいのが志望大学のオープンキャンパスや自分で大学に行って直に見てみることです。大学の写真を撮って部屋の見えるところに飾るのも良いと思います。遠い場所だと簡単にはいきませんが一度行ってみると新たな決心になります。具体的な目標を持つことが勉強の指針をはっきりさせることにつながります。

一、あきらめないこと

私は前期で受けた大阪大学には残念ながら合格できませんでした。自分が大学で何をしたいのか、将来何をしたいのか見据えたうえで先生からのアドバイスもあって後期の九州工業大学にしていたので、後期に向けての切り替えが上手くいきました。僕はセンター試験で目標点数に程遠い結果だったので半ば大阪大学をあきらめかけていましたが、ふんばってあきらめずに前期の試験対策をしたことが後期試験において自信を持つことにつながったのだと思います。合格発表を見に行き自分の受験番号があったときの感動は今まで味わったことのない高揚感でいっぱいになりました。現在合格発表はインターネットが主ですが、できれば直接大学に見に行くことをお勧めします。

一、生活環境を整えること

とにかく受験勉強はきついです。体力も必要で毎日勉強を持続させるためには生活環境を安定させておかないと難しいものです。本番に向け自分の力を十分発揮できるように身体的・精神的に安定した自己管理を必要とします。試験は朝からありますので、日常生活を朝型にしておいた方が良いと思います。食事も大切で朝ごはんは一日の活力になるのでしっかり食べるべきです。

以上の三つが僕の伝えたいことです。最後になりましたが六年間僕のことを厳しく温かく指導して下さった担任の先生方、クラスの皆、学年の皆本当にありがとうございました。いよいよ受験を迎える在校生の皆さんの合格をお祈りします。

ホームページ
真和中学・高等学校
http://www.shinwa.ed.jp
真和同窓会（杏葉会）
http://www.shinwa-dosokai.com

同窓会お知らせ
平成21年度真和中・高等学校
大同窓会（杏葉会）
講演会・総会・懇親会開催。
日時：平成21年6月20日（土）18時30分
場所：熊本ホテルキャッスルにて